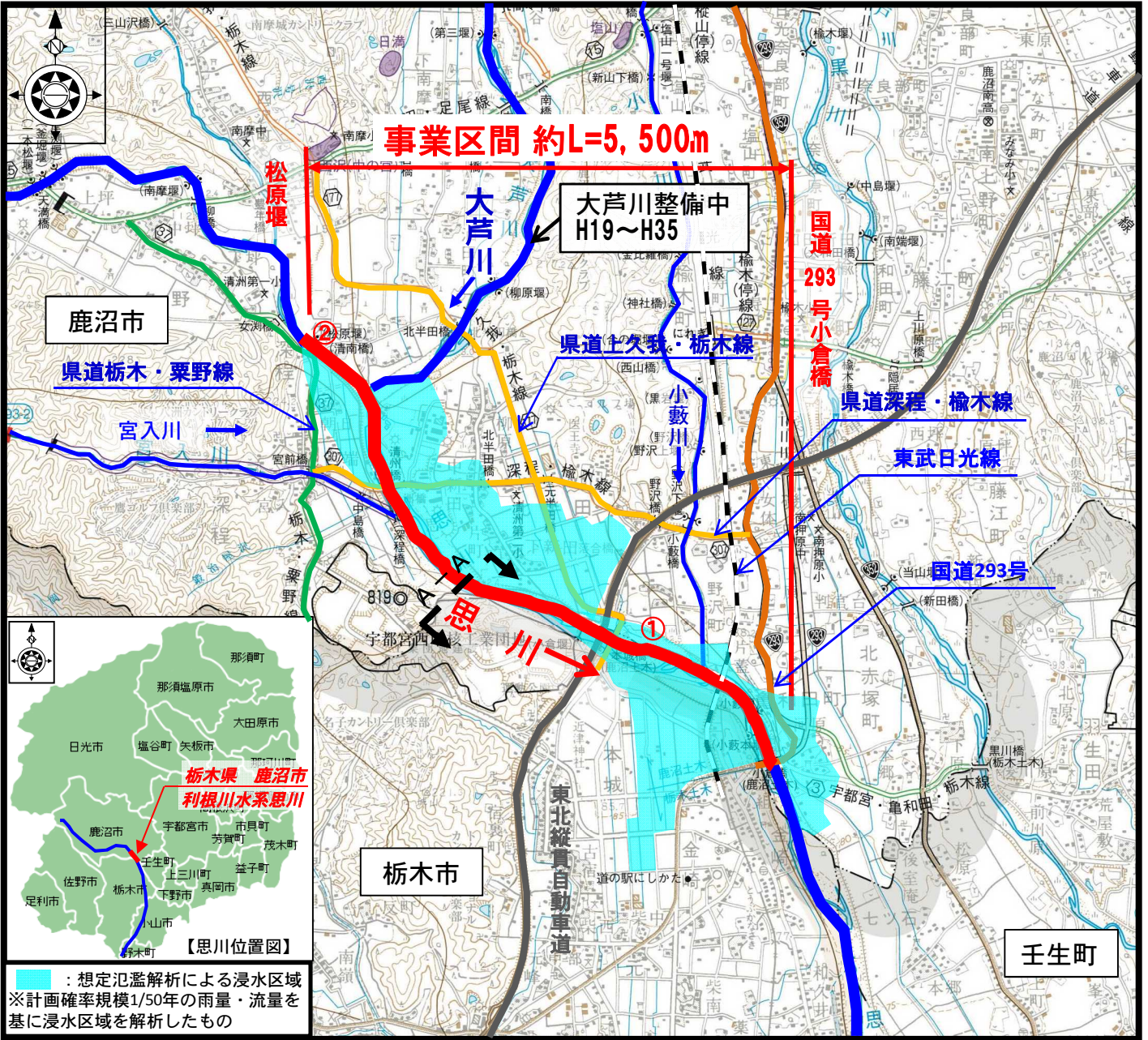


事業の概要				
事業名	一級河川 <sup>おもいがわ</sup> 思川 安全な川づくり事業		事業主体	栃木県
事業箇所	深程 <sup>ふかほど</sup> 工区 一般国道293号小倉橋 <sup>おくらばし</sup> （鹿沼市 <sup>かぬまし</sup> 電和田町）～松原堰 <sup>まつばらげき</sup> （鹿沼市 <sup>かぬまし</sup> 深程町）			
事業の目的、事業発案の経緯・背景				
<p>思川は、その源を足尾山地の地蔵岳（標高1,274m）に発し、鹿沼市、栃木市、小山市を流下し野木町で渡良瀬遊水地に流入する延長77.8kmの一級河川である。</p> <p>思川は、昭和26年から河川改修事業に着手し、現在、国道293号小倉橋まで事業を導入し進めている。</p> <p>本事業区間においても、計画に対し流下能力が不足している状況であることから、河川断面を拡大することにより、氾濫を防止し、浸水被害の軽減を図ることを目的としている。</p>				
事業内容				
【計画の基本スタンス】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>計画流量である 1,000m<sup>3</sup>/s～2,100m<sup>3</sup>/sの洪水を安全に流下できるよう河川断面の拡大を図る。</li> <li>河川整備にあたっては、現況の瀬、淵※等を可能な限り保全し、生物の生息・生育環境を確保するとともに現況の植生を保全する。</li> <li>※瀬とは川の水深が浅い部分であり、淵とは川の水深が深い部分のことである。</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>総延長：約5,500m</li> <li>計画流量：2,100m<sup>3</sup>/s（大芦川合流後） 1,000 m<sup>3</sup>/s（合流前）</li> <li>計画確率規模：1/50（概ね50年に一度の割合で発生する洪水流量を目標に整備します）</li> <li>川幅：約70～280m</li> <li>計画河床勾配：1/250</li> <li>工事内容【本工事】 築堤 約117,600m<sup>3</sup> 掘削 約57,200m<sup>3</sup> 護岸 約15,700m<sup>2</sup></li> <li>【附帯工事】 橋脚補強 3橋（道路橋 2橋 鉄道橋 1橋） 樋門樋管 3箇所</li> </ul>				
事業予定期間	平成28年度～平成42年度	事業見込額及び内訳	総事業費 約23億円 測量設計費：約 2億円 用地補償費：約 3億円 工事費：約18億円 財源内訳 国費：50% 県費：50%	
事業概要図				
事業位置図、標準横断面図、現況写真（別紙）				
県計画への位置付け				
平成27年3月に策定（変更）した「思川圏域河川整備計画」に基づき河川の整備を行う。				
他計画・他事業との関連				
大芦川広域河川改修事業（事業期間 H19～H35）				

事業の評価		
評価の視点	1. 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画流量2,100m<sup>3</sup>/sに対し、部分的に約半分程度の流下能力しか無い状況であることから、河川断面を拡大することにより、浸水被害の軽減を図る必要がある。</li> <li>また、現在事業実施中の支川大芦川が完了すると、思川に流入する量が増加するが、現況の本事業区間の河川断面では、その増加量に対応する事ができないことから、支川大芦川と合わせた河川改修が必要である。</li> </ul>
	2. 事業の適時性（今事業に着手する理由等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>支川大芦川の河川改修が平成35年度に事業完了予定であり、本事業区間において流入量増加に対応する河川の断面確保が必要であることから、平成28年度に事業着手し、計画的に河川改修を行う。</li> </ul>
	3. 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業は、既設堤防の嵩上げと現況河川内の掘削などにより、極力新規の用地取得を少なく河川断面の拡大を図り、流下能力を向上させる計画としている。大規模な用地を必要とする調節池や遊水地などの計画よりも、事業費の縮減、周辺環境への影響、土地の利用状況等の観点から現況河川を活かした整備を行う。</li> </ul>
	4. 事業手法の適切性（県が事業主体となる理由等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>一級河川思川の河川改修を行うものであり、河川管理者として県が事業を実施する。</li> </ul>
	5. 事業により予想される効果及び影響	○経済効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>費用便益比（B/C） 11.8</li> <li>総便益（B） 165.1億円 ※施設完成後50年間の効果を金銭に換算し現在価値化したもので、治水事業によって得られる家屋、農作物、公共土木施設などの被害防止便益の合計に、施設の残存価値を加算したものである。</li> <li>総費用（C） 13.9億円 ※建設費と施設完成後50年間の維持管理費をそれぞれ現在価値化して加算したものであり、『事業の概要』の「事業見込額及び内訳」とは異なる。</li> </ul> ○被害軽減効果（想定される主な浸水被害） 浸水面積 約 278ha、浸水家屋 375戸 一般国道293号、県道深程・楡木線、県道上久我・栃木線、県道栃木・栗野線、東武日光線
	6. 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況河道を生かした計画とすることで用地補償費を縮減し、また既設の護岸を極力利用することで事業コストの縮減を図る。</li> </ul>
事業の対応方針（案）		本事業については、平成28年度より着手する。

# 一級河川思川 事業概要図 S=1:50,000



## 【計画概要】

計画延長(m)	5,500
事業種類	河川改修
計画確率規模	1/50
計画流量 (m <sup>3</sup> /s)	2,100
現況流下能力(m <sup>3</sup> /s)	概ね1,100
総事業費 (億円)	約23

## 【出水の状況】

① 本城橋下流付近 (H14.7)



② 清南橋上流付近 (H14.7)



## 【標準断面図A-A】

